

水俣が生んだ新たな価値

石牟礼道子の見た水俣病

二〇〇六年十月二日～二〇〇七年十二月末
水俣市立水俣病資料館

水俣病患者の存在の残

酷さは、現代の民衆が

追々に荷うであろう受苦

の極限にあり、破滅期に

入った人類史の水俣病と

は、原爆とともにならぶ最

初の洗礼名である。



水俣には生かされている人間の希望がある

石牟礼 道子

入場無料・月曜日休館
電話〇九六六・六二・二六二一
FAX〇九六六・六二・二二七二

作品紹介

- 『石牟礼道子初期散文』
- 『海と空のあいだに』
- 『潮の日録一』
- 『樹の中の鬼』
- 『不知火ひかり風』
- 『草のことづて』
- 『苦海浄土・わが水俣病』
- 『不知火海／水俣・おわりなきたたかい』
- 『流民の都』
- 『天の魚』
- 『陽のかなしみ』
- 『わが死民』
- 『潮の呼ぶ声』
- 『葛のしとね』
- 『西南役伝説』
- 『夢劫の人』
- 『あやとりの記』
- 『椿の海の記』
- 『みなまた 海の声』
- 『言葉果つるところ・鶴見和子対談集』
- 『ヤボネシア考』
- 『常世の記』
- 『おえん遊行』
- 『十六夜橋』
- 『食べごしらえ おままごと』
- 『水はみどろの宮』
- 『天湖』
- 『アニマの鳥』
- 『はにかみの国』
- 『石牟礼道子のコスモロジー 不知火』
- 『新作能 不知火』
- 『海霊の宮』
- 他 多数

～水俣が生んだ新たな価値～
石牟礼道子の見た水俣病

No.	タイトル
1	石牟礼道子の見た水俣病
2	水俣の風土と人は 石牟礼道子を育んだ
3	道子は母に 妻に 生きた
4	わたしのゆきたいところは どこか
5	悶え神さん
6	もだえてなりと加勢しませんばなあ
7	今日ただいまから私たちは国家権力に立ち向かうことになったのです
8	チツソ株主総会に ご詠歌が流れた
9	もうひとつの この世への扉を叩く
10	祈るべき天とおもえど天の病む
11	猫の供養
12	能 不知火 この世に彷徨いし 魂たちよ
13	水俣には 生かされている人間の希望がある
14	なんとか 土地に生きていた言葉に近づきたい
15	国を超えて広がるアニミズム 気配を石牟礼道子にみた 鶴見和子
16	一輪の花